



主催」が5月18日、追分旭の安平ダム建設予定跡地（安平川上流部）において、関係者や町内各小・中学校の児童・生徒及び一般参加者などおよそ100名が参加して行なわれました。参加した人達は、植樹する0・5畝の土地に用意されたミズナラ、ハルニレ、カツラとヤチダモの4種類500本の苗木をそれぞれいねいに植樹しました。

町では、この「安平町グリーンダム植樹祭」や「瑞穂ダム植樹祭」を通して地球温暖化の原因となつていく二酸化炭素の削減と森づくりによる自然環境保全に向けて植樹を実施しました。また、株式会社ニトリ、北海道電力株式会社などの企業も環境対策に積極的に取り組んでいます。これを機会に私たち一人ひとりが刻一刻と深刻化している地球環境について、私たち人間だけではなく、共に生きている動物や植物のことも考え、すぐ目の前の差し迫った、とても大きな問題として自覚し、考え、実践していかなければならないのではないのでしょうか。

安平ダム建設予定跡地に決定 「あびらエネモの森」命名記念植樹祭

北海道は、森林整備を希望する森林所有者と整備を実施する企業を募集して森林整備を進める制度として、「ほっかいどう企業の森林づくり」を進めています。安平町では、安平ダム建設予定跡地（追分旭）の植栽計画を北海道に登録したところ、北海道電力株式会社（札幌市中央区）の支援を受けて森林整備をすることが決定。5月30日に山本北海道副知事、瀧町長並びに吉田北海道電力株式会社常務取締役を始め関係者およそ100名が出席して記念すべき第1回目の植樹（カラマツ・200本）が行なわれました。この事業は、名称を「あびらエネモの森づくり」として平成28年12月まで実施されます。また、同社により、今年から9年間かけて50畝の土地に10万本の植樹と樹木の管理も行なわれることになっています。

※エネモは北海道電力株式会社のマスコットキャラクター名。



協定調印式（5月21日）
左から瀧町長、山本副知事、吉田北電株常務取締役

